

掘削調査の作業できず

上関原発 中電、抗議活動受け

中国電力は4日、上関原発(上関町)建設に伴い、予定地でのボーリング調査を前に準備作業に入ろうとしたが、始められなかった。作業を断念した昨冬同様に原発反対派が現場海域や陸上で抗議。中電は安全を確保するため、この日予定した作業を中止した。

準備作業は現場で掘削地点を確定し、潜水して危険物がないかなどを確認する。この日は測量してブイを設置する予定だった。現場海域には対岸の祝島に暮らす反対派の漁師の漁船など約10隻が集まった。午後2時ごろ到着した中電側の船が移動を呼び掛けたが応じず、中電側は2時間

余り後に作業を断念して帰港した。

昨冬の作業開始後もこうした状況が続き、中電は調査に入れないまま当初計画を断念。今回仕切り直した。調査は予定地の陸から西約200メートルの水深約11メートルの海底を60メートル掘削し、活断層の有無を調べる。

上関原発を建てさせない祝島島民の会代表の清水敏保町議は「建設につながる調査は認めない。今後も現場で監視行動を続ける」。中電上関原発準備事務所の内富恭則広報部長は「安全確保を最優先に、調査を理解してもらい進めたい」と話している。(堀晋也)

船で抗議活動を行う反対派(手前)の説得を試みる中国電力社員ら



ボーリング調査 中電が準備開始

上関原発 住民ら抗議、作業は中止に

上関町で上関原子力発電所の建設計画を進める中国電力(広島市)は4日、予定地の埋め立て海域でボーリング調査の準備を開始した。しかし、調査に反対する地元住民らが漁船で抗議活動を展開し、この日の作業は中止となっ

た。

調査は原発の安全性を示すデータを補強するため、予定地の断層データを収集する。沖合約200メートルの地点で海底から深さ約60メートルまで掘り、試料を採取するという。同社は昨年11月にもボーリング調査の準備を始めたが、抗議活動や荒天で中断。10月7日、再開するために必要な許可申請



原発建設予定地前の海上で、準備作業に抗議する複数の反対派の船(奥)に移動を呼び掛ける中電社員(手前) (撮影・山下悟史)

書を県に提出し、同29日に許可が出ていた。この日は掘る場所の測定などを行う予定だった。反対派の漁船が行き交ったため、中国電力の職員が船から説得を試みたが、安全確保が困難と判断して中止した。同社の担当者は「5日以降も安全確保を最優先に考え、調査を行っていきたい」と話した。